

ひのらこだより

日野町内の幼稚園や保育園・こども園、小・中学校での子ども達の様子や特色ある取り組みの内容を紹介していきます。

日野町立保育所 あおぞら園



あおぞら園 本園

【保育目標】

- * 明るく丈夫な子
- * 友達となかよく遊べる子
- * よく考える子



あおぞら園 鎌掛分園

保育所での保育は、子どものありのままの姿を受け止め、情緒の安定を図りながら、きめ細かく対応していく養護的側面と、保育の意図や保育者としての願いを込めながら子どもの成長・発達を促していく教育的側面があります。この二つの側面を一体的に展開しながら共に生活しています。

『いきいき・わくわく・のびのび』と、生きる力の基礎を育ていけるよう、日々保育を行なっています。

村井にある本園は、現在0歳児4名、1歳児6名、2歳児12名、3歳児20名、4歳児17名、5歳児22名の計81名の子どもたちが通っています。

鎌掛にある鎌掛分園は、あおぞら園の分園として、1・2歳児を対象に開所され3年目を迎えました。現在1歳児5名、2歳児10名の子どもたちが通っています。

園庭での遊び大好き



0.1.2歳児は、園庭のなかよし広場で遊んでいます。

体をいっぱい使って遊んでいます。いろいろなことに挑戦もしています。

お散歩大好き



地域の公園や田んぼのあぜ道・野原へ出掛けて、多くの気付きや発見がいっぱいです。3歳以上の園児は図書館や松尾公園にも出かけています。

タンポポの笛、ならせるようになったよ。

虫見つけた。この虫の名前何かな？

給食大好き



おいしいね。

給食は自園で調理しています。また、今年度からは3歳以上の園児の米飯も園で炊飯し、温かいご飯を食べています。

分園の給食や手作りおやつも本園で調理し、運搬しています。

砂場がいろいろ



自然が一杯 散歩楽しい



見て! 見て!

雨の日だって元気に遊んでいます

大好きな散歩に行けない雨の日も、ころをくすぐる手作りおもちゃで、元気一杯楽しく遊んでいます。



外来性動物の生態と対策について

ここ数年、日野町でも家庭菜園や住宅内で、外来性動物の糞尿による生活環境被害が増加してきています。その生態と防除について説明します。

アライグマの生態と特徴

アライグマは、愛くるしい見かけとは対照的に、性格は凶暴で、飼い主にもなつきません。その為、ケージから逃げ出したり、不法に



穴をあけ、中に手を突っ込んで食べる

アライグマは成長が早く、1歳になるとメスは繁殖できます。3月下旬から5月上旬にかけて、1〜6頭の子どもを産みます。尾にあるシマ模様が他の動物と見分ける際の大きなポイントです。

被害防止の為のポイント

① 餌を与えない

見た目は可愛くても、餌は絶対に与えてはいけません。畑の作物はネットを掛ける等、簡単に食べられないようにしましょう。

生ゴミを畑に放置したり、廃棄する作物を畑に野積みして放置したり、成熟した果物を収穫せず放置しないようにしましょう。

また、家庭から出る可燃ゴミ(生ゴミ)も荒らされないように注意が必要です。夜間に可燃ゴミを出す時、夜行性のアライグマが夜中にゴミをあさり、明け方、散乱したゴミをカラスがあさる。それを目撃した人はカラスのしわざと誤認するケースもあります。

② ねぐらを作らせない

アライグマの進入口になりそうな壁や床下、屋根近くの隙間はふさぐようにしましょう。柱や雨どいを伝って屋根へ上り軒先の隙間から天井裏へ侵入することもあります。特に、屋根でも人気の少ない、社寺などの古い木造建築は、ねぐらや繁殖場所に使われやすいので、注意が必要です。

また、人が住んでいる民家でも、進入口があると、アライグマが出産・子育てをします。

家屋に侵入された、家庭菜園を荒らされる等、お困りの際は日野町有害鳥獣被害対策協議会へご相談ください。



社殿天井に開けられた穴

